

令和元年度 学校評価報告書(自己評価書・学校関係者評価書)

令和2年2月19日作成

| 中期目標 | 重点努力目標(評価項目) | 自己評価 | 総合評価 | 達成状況と成果 | 関係者評価 | 学校関係者の意見・要望 | 今後の改善方針 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて) |
|--|---|---|--|--|--|--|--|
| をの魅育を自ら力あるで学ぶ教育意欲活と動主体的な態度生徒 | 授業改善 | わかりやすい授業を進めるとともに、「自ら調べ、すすんで他と関わり、学びを深める」授業づくりに努める。 | A A | <ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書など、ICTを活用した授業に積極的に取り組むことができた。 アクティブラーニングを意識した授業を行っている。 各教科で、わかりやすい授業をするように工夫をしている。 問題解決的学習を取り入れ、他の生徒の考えを興味し自分の意見と比べたり組み合わせたりしながら授業を行った。 特別支援学級では、個別に細かく対応して指導している。自分で調べたり、話し合いなどの関わり合いをもったりしてコミュニケーション活動を工夫して行った。 | A | <ul style="list-style-type: none"> タブレットやパソコンを使用した授業は、時代に即し、子どもたちの興味のあるものになっている。次年度にも生かすことができるように今後も積み重ねていったほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領を全職員で理解し、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を進めていく。 答えを導き出すうえでの家庭を大切に指導をすることで、自分の考えをもてるようにする。 ★タブレットの置き場所等を工夫し、更に使いやすくする。 学ぶことが楽しくなる授業づくりの研修をもっと行う。 |
| る心り諸の活動育謝ををす通る心。律挑す思戦るいす | 人間関係づくり | 考える道徳の授業づくりのいっそうの推進を図るとともに、社会の一員としての自覚を高め、主体的かつ建設的に他と関わる能力の育成をサポートする。 | A A | <ul style="list-style-type: none"> 行事や学年の様子に合わせた題材を選んで授業を行うことができた。 教科書「新しい道徳」がとても使いやすくなり、道徳の授業が充実している。 道徳の授業を水曜日の1限に固定することで、学年で足並みをそろえて授業を行った。同じ題材で行うことで、授業の後、生徒の反応について担任同士で話し合いができた。 ロールプレイングやアソシエーションを取り入れた授業を行うことで、具体的な場面を想定し主人公の心情に寄り添うことができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 友達の良いところを見つける目を養うことはとてもよいことである。メッセージカードを続けしていくことで、自分では気がつかない自分のよさを見つめ直す場となることを期待している。本音を出すことも少ないので、その機会に申し込まれればと思う。 | <ul style="list-style-type: none"> 計画的に授業を行うことと合わせて、日常生活に合った授業を取り入れていく。 教師用の教科書が各クラスにあるとよい。 来年度も学年で時間割をそろえて行う。 板書や教材の工夫をもっと行うようにする。板書データや教材を蓄積していく。 ★自己有用感を高める道徳の授業を継続していく。 |
| る一自か生徒意集らし欲団高、一め目人態にる標とを人育しもち成よに努力すずと社会し | 生徒活動の活性化 | 生徒がすすんで取り組む活動を奨励し、取り組みの姿勢や成果から形成的に個の成長を認め、達成感と自己有用感を育てる。 | A A | <ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動として各行事の運営やさまざまなキャンペーンの企画や運営を行った。 合唱コンクール、体育祭など、生徒と教師が一体となって練習をする光景が見られた。生徒たちには貴重な経験になった。 生徒主体の活動を進めるために、級長会で学年の課題を見つけ改善したり、級長会だよりを発行したりした。 行事や諸活動において、「なぜやるのか」を生徒に考えさせる時間を設け、主体的な取り組みができるようにした。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 生徒会で取り組んだハイタッチキャンペーンなどを来年度も続けていってほしいと思う。ハイタッチキャンペーンを始めた当初は恥ずかしがっていた子どもを回を重ねることにコミュニケーションがとれるようになって聞き、とてもすばらしい活動だと感じた。 「なぜやるのか」を考えさせる活動は目標設定につながるので、とてもよいと思う。 | <ul style="list-style-type: none"> 現在の活動を継続しながら、他学年との情報交換を密にし、よいものを積極的に取り入れるようにする。 ★リーダー会などの活動を続け、考えて動く力や企画する力などを更に伸ばす。 より広い視野でよりよい学校というものを考えられるようにしていく。 清掃、挨拶についても一度見直しをする。 |
| り教に育努諸条件の整備と改善を図り、安心して学べる教育環境づくり | 安心・安全な学校づくり | 周囲との関わり合いを大切にさせ、子どもたちの居場所づくりや自己肯定感を高める指導に努める。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 生徒同士の関わり合いが温かい。 保健室が生徒にとって大きな心の拠り所になっている。一人一人丁寧に対応し、悩み相談にもあたっている。 行事後の「ありがとうカード」や帰りの会での「友達の良いところの紹介」など、自己肯定感を高める活動が十分に行われている。 学級所属意識や行事への意欲度も高く、雰囲気のような教育活動を推進することができた。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 生徒が存在感や自己有用感を感じていることはとてもよいことである。給食参観を通して、男女隔てなく、仲良くコミュニケーションをとっている様子を見ることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ★他の生徒を大切にすることを育てる指導を今後も続けていく。 保健室を頼りすぎてもよくないので、生徒一人一人も自ら解決する力をつけるようにしていく。 ・Q/Uや日頃の生徒観察、生活日記を通して生徒同士の人間関係を教師も把握し、居心地のよい学級づくりを行う。 |
| 多忙化解消に関わる業務改善 | 行事や諸活動・会議の見直し・精選を行い、よりよい教育活動を目ざすとともに、教職員が心と時間余裕をもって取り組むことのできる体制づくりを進める。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 年度終わりに校務分掌ごとに年間の活動の振り返りを行い、精選をしている。 合唱コンクールの朝練習を廃止するなど、少しずつではあるが見直しを行った。 行事は相変わらず忙しいが、意欲をもって行っているのが難し面はある。 働き方改革を進めると言いながらもやることが多く、時間的な余裕が生まれていない。 職員意識が変わりつつあるが、まだ精選とまでは至っていない。 仕事が精選されていないため退校時間が遅くなっている。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 先生方がいろいろな仕事を抱え忙しいとは思いますが、書類作成の簡素化等によって時間をつくるようにしていきたい。そうすることで、子どもたちと関わる時間を増やすことができればと思う。 電話応答サービスも浸透してきたが、緊急時は連絡をとることができ、職員が対応できるようにしていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ★行事の振り返りを生かし、よりよい教育活動になるような行事の内容にしていく。 思いきって削れるものは削っていく。 ペーパーレス化を進める。 テスト最終日の部活動を休みにする。 ★学校行事の精選を進める。 ★職員会議以外の資料も事前に配付し目を通した状態で会議を行う。打ち合わせも書面で済ませられるものは書面で済ませる。 ・テスト日の会議は開始時刻を早める。 | |
| 努に制教め満を職ち基員相学と互校しの教育信頼の意と協活力に力 | 教職員の力量向上と連携・協力 | 現職研修を計画的に進め教職員の専門性を高めるとともに、職員の持ち味を生かし、連携・協力体制を強めた組織的な教育活動を展開する。 | B B | <ul style="list-style-type: none"> 新学習要領、Q/U、救命講習、アレルギー対応などの研修が計画的に進められた。どれも生徒の対応に生かせる研修であった。 各学年代表1名による授業研究を行うことができた。協議会の意見交換も活発に行われ、指導力向上に役立った。 相互授業参観が行われているが、一人も見に来なかったということもあり、形骸化しているように思われる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちのアレルギー対応のために、どの先生が見てもわかるように教室に貼り出して安全対策をしているのはとてもよい。今後も続けていってほしいことである。 安全にかかわる研修はとても大切なので、今後も計画的に進めていただきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領についての理解を更に深める研修を行う。 普通学級と特別支援学級の担当者との連携を常にとるようにする。また、学年をこえたつながりをもつ。 公開授業を計画的に見直しをもっと行う。時間を教科部会で決め、同じ教科の職員は参観ができるようにする。 ★喫緊の課題に対する研修を今後も継続していく。 |
| 生体保活制課をの者支健策や援全き地す。前協とのきし協なて力 | 保護者・地域との協力体制強化 | 保護者や地域との情報交換、協力的な体制構築に努め、安心で機能的な学校づくりを進める。 | A A | <ul style="list-style-type: none"> 学校公開日を設定し、行事や授業の様子を保護者の方に見ていただく機会を多く設けている。 ホームページを通して、生徒の活動の様子を伝えている。 保護者との連絡等、協力的に行っている。 こまめな家庭連絡や訪問により、家庭とのつながりを強めることができた。 クレーム対応が大変そうな担任がいる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 校区の方から学校を支える体制をとってきたい。 校区の子どもたちのために大人が何をしとあげられるかを考えて活動していくようにしたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの結果をもとに改善策を講じる。 ★校区各種団体やPTAとの連携を通して、生徒の健全育成に努める。 保護者とのつながりは、卒業生の親も含め大切にしていきたい。卒業生の親からも進路について貴重な情報をいただく。(特別支援学級) |

【自己評価】 A:十分に達成されている B:概ね達成されている C:あまり達成されていない D:ほとんど達成されていない

【総合評価】 自己評価をもとに、上記のA・B・C・Dで評価

【関係者評価】 A:適切である B:概ね適切である C:あまり適切ではない D:適切とは言えない